令和５年度　第５学年　授業改善プラン

文京区立駕籠町小学校

	児童の実態及び課題	○中心とする単元 ◆カリキュラムデザイン	授業改善に向けての具体的な手立て	◎成果 ●課題
知識・技能	＜国語＞ ・言葉を適切に活用したり、内容のまとまりを意識したりして、自分の考えを書くことが難しい児童が多い。 ＜算数＞ ・図形の面積や体積を求めることに課題がある。	＜国語＞ ○「あなたは、どう考える」 ＜総合＞ ◆「わたしたちにできること～福祉を考える～」との関連 ＜算数＞ ○「面積の求め方を考えよう」	＜国語＞ 作文ノートの活用 ・テーマを設けたり、活用する言葉を限定したりして、週に一回、作文ノートに取り組ませることで、自分の考えや事実を文章で表現する力をつける。 構成メモの活用 ・自分の主張、その理由と根拠を構成メモに整理し、全体像を捉えながら意見文を書かせる。 ＜算数＞ 具体物の活用や体験的活動 ・具体物の活用や体験的な活動を通して、数量的な感覚を養うことで、面積や体積のついての理解を深める。（公式の意味理解）	＜国語＞ ◎文章を書くことへの抵抗が減ってきた。 ◎教科書の例文から構成を捉え、その構成を明示したワークシートを活用したことにより、意見の述べ方の順序を理解しながら書くことができた。また、反論や資料の使い方にも着目し、述べ方を工夫する児童も見られた。 ●話し言葉と書き言葉の区別や文法の正しい使い方に課題が残る。 ＜算数＞ ◎公式を適切に活用して、面積を求められるようになった。
思考力・判断力・表現力等	＜国語＞ ・読書の習慣があまりなく、物語の構造と内容を把握することが難しい児童が多い。描写に対する解釈が表面的である。	＜国語＞ ○「たずねびと」 ○「大造じいさんとガン」	読み方の共有 ・描写の探し方や効果について考え、共有する活動を行う。 ノート学習 ・ノートに図や表など、自分が表現しながら思考しやすい方法を選んでまとめるようにする。	＜国語＞ ◎児童の学びを見取り、複数の意図的なグルーピングで話し合いを行ったことで、児童の考えが広がった。 ◎多様なワークシートから表現方法を選択して学んだことで、個々の読みに高まりが見られた。 ◎児童がまとめたワークシートを教師が見取り、個々の読みに問いかける助言を行ったことで、読みの深まりが見られた。 ●児童によって、叙述から離れて考えたり、細かな表現を読み飛ばしたりしてしまう場面が見られる。
学びに向かう力・人間性等	＜全教科＞ ・自らに向き合い、粘り強く取り組むことが難しい児童が多い。 ・学びの目的を意識しながら活動することが難しい児童がいる。	＜国語＞ ○「よりよい学校生活のために」 ＜社会＞ ○「わたしたちの生活と工業生産」	学習計画とふりかえり ・学習の見通しとゴールイメージを全員がもてるように、学習計画について話し合う活動を多く取り入れる。 ・学習の目的や条件が明確になるよう、児童とやり取りを行いながら学習計画を立てる。（学習の目的の自覚） ・児童のふりかえりに対して、随時フィードバックを行う。（学びの調整）	＜国語＞ ◎学級全体で学習の目的や学習方法を考えることで、児童の主体性が高まった。 ◎振り返りの視点や教師のフィードバックを与えることで、学びの連続性を感じる児童や、自らの学び方の変容を実感する児童が見られた。また、次の学びの見通しもち、自己の学びを調整する児童も見られた。 ●目的をしっかり捉えられないと、学習活動が目的からそれてしまう。そのことに自らが気付いたり、調整したりすることは、まだ難しい。